



札幌響くらぶ10周年にあたって

札幌交響楽団

音楽監督 尾 高 忠 明

札幌響くらぶ10周年、おめでとう御座います。皆様の素晴らしいサポート、楽員、スタッフの努力が花を開き始めている現場に参加できていることの幸せを実感しています。札幌響は、キタラホール、札幌響くらぶと言う、素晴らしい環境に恵まれたのですが、数年前、ご存じのような経済危機を迎えてしまいました。その様なときに、札幌響くらぶの皆さんをはじめとして、数多くの方々からのご声援を戴きました。また、それに立派に応えてくれた楽員全員に心から感謝せざるをえません。その後、新しい素晴らしいメンバーも多数加わり、次なる一步を歩み始めています。50周年はもちろん大切ですが、そこを超えた先までも見据えてがんばっていきたいと思っております。

札幌響くらぶは単に札幌だけに留まらず、全国的な規模でファンクラブの充実を目指してくださっています。日本全国のオーケストラの輪が出来ていく、その中心的な役割を上田会長を先頭に果たして下さっていることに心より御礼申し上げます。

我が恩師、斉藤秀雄先生が私の卒業式の日にお話をして下さいました。「尾高、君は22歳だ。まだ、音楽はわからん。仕事もこない。ただ勉強していなさい。30歳になったら仕事がきはじめる。そしたら無我夢中でやりなさい。そして40歳になったら、毎日毎日反省しながら良い仕事を心がけなさい。そうすれば50歳になった時、はじめて指揮者としてよちよちと第一歩を歩ける。」これにはびっくりした。もう相当自分が出来るつもりだったので、やけ酒を飲んだのを覚えている。が、その後30、40、50、60と年月を経てきた今、先生のお言葉は正しく、大変重みのあるものだったと思えるようになってきた。やはり、物事は10年単位で変わっていく気がする。札幌響くらぶ10周年、この先20周年、30周年に向けての大きなスパンでのビジョンを持って戴ければと思う。僕たち札幌響も、60周年、70周年までの長期構想も考えつつ素晴らしいオーケストラを目指していきます。

これからも今まで以上の叱咤、激励をお願いいたします。